



# ハプスブルク家最後の伝説的皇妃エリザベート 自由を渴望した彼女の知られざる心の軌跡

ハプスブルク帝国が最後の輝きを放っていた19世紀末、「シシィ」の愛称で親しまれ、ヨーロッパ宮廷一の美貌と謳われたオーストリア皇妃エリザベート。1877年のクリスマス・イヴに40歳の誕生日を迎えた彼女は、コルセットをきつく締め、世間のイメージを維持するために奮闘するも、厳格で形式的な公務にますます窮屈さを覚えていく。人生に対する情熱や知識への渴望、若き日々のような刺激を求めて、イングランドマバイエルンを旅し、かつての恋人や古い友人を訪ねる中、誇張された自身のイメージに反抗し、プライドを取り戻すために思いついたある計画とは――。

日本でも宝塚歌劇団、東宝ミュージカルの大人気演目の主人公として広く親しまれているエリザベートの40歳になった1年間に光を当てた本作は、史実に捉われない大胆かつ斬新な美術と音楽、自由奔放な演出で、そんな伝説的皇妃のイメージを大きく覆し、「若さ」「美しさ」という基準によってのみ存在価値を測られてきた彼女の素顔を浮き彫りにする意欲作である。



第75回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門 最優秀演技賞受賞

世界が絶賛! ヴィッキー・クリプスが演じる  
唯一無二のエリザベートの肖像

監督・脚本はオーストリア映画界を代表する気鋭、マリー・クロイツァー。エリザベートに扮するヴィッキー・クリプスは、『ファントム・スレッド』や『彼女のいない部屋』など、欧米を股にかけて活躍する実力派。クリプスが本作のアイデアの発端になったというだけに、その圧巻のパフォーマンスで、2022年、第75回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門で最優秀演技賞に輝いた。さらに、本作はロンドン映画祭でも最優秀作品賞を受賞、第95回アカデミー賞国際長編映画賞ショートリスト（オーストリア代表）にも選出され、クリステン・スチュワートやエドガー・ライト監督（『ベイベードライバー』）、パティ・スミスほか、各界著名人からも賞賛の声が寄せられている。老いに向き合い、皇妃を縛り付ける「コルセット（仏語：Corsage）」や皇室の厳格な伝統、そして世間の理想像から自由になることを心に決めた時、彼女は何を選び取るのか。あまり語りぬことのない後年のエリザベートを描く本作を通して、なぜエリザベートが現代に生きる私たちの心をとりこいで離さないのか、その理由が見えてくる――。

監督・脚本：マリー・クロイツァー

出演：ヴィッキー・クリプス、フロリアン・タイヒマイスター、カタリーナ・ローレンツ、ジャンヌ・ヴェルナー、アルマ・ハースン、マヌエル・ルバイ、フィガネ・オールフィールド、アーロン・フリス、ローザ・ハンゾウジ、リリー・マリー・チェルトナー、コリン・モーガン

2022年/オーストリア、ルクセンブルク、ドイツ、フランス/ドイツ語、フランス語、英語、ハンガリー語/114分/カラー/モノクロ/2.39:1/5.1ch 原題：Corsage 字幕：松浦美奈 字幕監修：菊池良生

後援：オーストリア大使館/オーストリア文化フォーラム東京、ドイツ連邦共和国大使館、オーストリア政府観光局 提供：トランスフォーマー、シネマライズ、ミモザフィルムズ

© 2022 FILM AG - SAMSA FILM - KOMPLIZEN FILM - KAZAK PRODUCTIONS - ORF FILM/FERNSEH-ABKOMMEN - ZDF/ARTE - ARTE FRANCE CINEMA

transformer.co.jp/m/corsage/ @corsage\_jp @transformer\_inc @transformer.jp @084xgrf



©オーストリア政府観光局 / Cross Media Redaktion

皇妃エリザベート（シシィ、リジィ）1837-1898

バイエルン王国、ミュンヘンで、ヴィッテルスバッハ家傍系のバイエルン公マクシミリアンと王女ルドヴィカの次女として生まれる。16歳でオーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフに見初められ結婚するも、自由奔放な性格は、ヨーロッパ随一の伝統と格式を誇るハプスブルク王朝のウィーン宮廷での生活と合わず、次第にウィーンを離れて流浪の旅を繰り返すようになる。ハンガリー好きとしても知られ、1867年からはハンガリー王妃を兼任。1898年、スイスで無政府主義者によって暗殺された。享年60。



8/25 fri ROAD/HOW

ムビチケオンライン¥1,500(税込)発売中!